

“グル協”の活動を
紹介します！

(福)ふじ寿か会
グループホーム
そまやまの里
塚田明人



平成12年4月、介護保険法導入にて全国的にグループホームの開設ラッシュにより、神奈川県内でも急速に数が増しました。それに伴いサービスの質の確保・人材育成・サービス評価が急務とささやかれ、県域でも先駆的に取組まれていた事業所・学識経験者・神奈川県行政職員の熱意・期待・危機感と共に、平成13年5月『神奈川県認知症高齢者グループホーム協議会』を発足させました。県域の数多くの事業所の方々に賛同していただき、早いもので6年が経過しました、この間にも当協議会として様々な取組み（各研修会・交換研修会・全国各協議会との情報交換・評価事業）や、多方面への協力（県域内連絡会との意見交換会・全国グループホーム協議会）をしてきました。

平成18年4月介護保険法改正により、地域密着型サービスが創設され認知症対応型共同介護事業と位置づけられました。会員の方々と協議会としての取組み方、存在意義について再度考えを深め、協議会として『利用者・家族・地域住民・現場スタッフ・会員の声を』反映できる講演会、研修会、情報交換の場づくりの開催、各機関との協力体制作りに取り組んでいます。

現在、神奈川県域内グループホームは490力所となり、当協議会会員も275事業所が会員登録され、講演会・研修会を通して事業所としての質の向上に取り組んでいます。また、昨年度から当協議会で広報誌『きらっと』（季刊誌）を発行することになりました。より地域に根ざした協議会を目指し、より多くの地域の声・現場の声を聞き、会員皆様の発信源となるよう頑張っています。

最後になりましたが、当協議会に関心のある方・未加入事業所の方々、協議会を通して、より良いサービス提供のあり方・情報交換を一緒にしてみませんか。



約3600世帯が暮らす
広大ないちよう団地



「水餃子をつくる会」では楽しい雰囲気の中、住民同士の交流がはかられました

等を通して住民同士の交流を深めてもらいたいと考えています。

市と事業者の協働事業

市では福祉活動に対する担い手不足が課題となっており、平成十八年に策定された市地域保健福祉計画では、「人材発掘・人材育成」に重点的に取組むとしています。その取組みのひとつが、市の条例に基づく協働事業「ふくしの手 全員集合」です。平成十七年度から展開されているこの事業では、社会福祉法人敬愛会、ボランティアグループパパボラやま、NPO法人ワーカーズ・コレク

ティブ想（以下、「想」と市とが、互いの活動内容に理解を深めながら、これから福祉活動を始めようとしている人を対象に、それぞれの専門知識を活かした講習会や研修プログラムを企画しています。受講者の中には後日ボランティアに参加した方もあり、着実に成果を生んでいます。想代表の田丸直子さんは、「「ふくしの手」には、想の経験を活かしたいという想いと、市や他の団体に想の活動を知ってもらえればと参加しました。協働事業を通して事業者同士の顔のつながりができ、利用者への支援の幅が広がりましたね」と話

します。「ふくしの手」以外の場面でも、想と同じく個別支援活動を行う地区社協と、地区の情報や支援のあり方について情報交換しているそうです。



大和市では、地区社協やNPO、ボランティアグループなどの多様な主体が、接点を大切に互いに理解を深めながら活動を展開しています。

※「外国につながる住民」とは、外国籍の方のみならず、外国の文化や言語にアイデンティティを持つ日本国籍や無国籍の方を含めた考えです。